

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2021年3月22日

報告書名：平成31年度 完了報告書 (JPF)

平成31年度 JPF 完了報告書

事業名	ナンガハル県及びクナル県における国内避難民・帰還民への保護・教育・水衛生支援 Emergency Protection, Education and WASH Assistance to Returnees and IDPs in Nangarhar and Kunar Province, Afghanistan	
事業対象地	アフガニスタン ナンガハル県及びクナル県	
事業期間	2019年6月17日～2020年7月16日	
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム	
総支出・返還金	総支出：86,602,047円（返還額：21,119円）	
プロジェクト目標および、その達成度	本事業では、対象地域において、国内避難民・帰還民の特に脆弱層である女性、子どもを対象に、保護、教育、水衛生分野における課題に対応するために、①女性のエンパワーメント、②コミュニティベースの教室（CBC）による就学サポート、③給水用井戸開設・水衛生啓発を実施した。COVID-19の感染予防に配慮した活動を実施したことにより、計画していた活動の遅延や変更が発生したものの、各コンポーネントの達成度をもとに事業目標は概ね達成することができた。対象地域の女性約2,133人が女性センターの活動などに参加するなど、数値目標以上の女性が保護に関する認識および基礎知識などを獲得することができた。また、CBCにおいても、感染症対策を徹底しつつ、不就学児童960人の教育の機会、さらにCBC非登録の児童144人が授業を見学できる機会を提供することができた。井戸開設および水衛生啓発活動では、給水施設の設置と衛生啓発を行うことで、女性や子どもを含む400世帯が安全な水へのアクセスおよび衛生に関する知識を獲得することができた。	
実施内容 概要	(1) 女性のエンパワーメント 国内避難民・帰還民の女性のエンパワーメントを図るため、女性センターを通して女性が集える場を設置し、ジェンダーに基づく暴力、衛生、子どもの保護など、保護の基礎知識を獲得できるように研修などを実施した。	受益者数 対象地域の女性約2,133人（女性シェーラ10人＋女性センター活動75人＋識字教室50人＋イベント参加506人＋縫製教室25人＋プロモーター研修20人×3センター）
	(2) コミュニティベースの教室による就学サポート 国内避難民・帰還民で不就学児童が教育の機会を得られる場を提供する。教育局とも連携し、不就学児童の就学サポートを実施した。	対象地域の不就学児童960人（1学年40人×6学年×4地域）

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2021年3月22日

報告書名：平成31年度 完了報告書 (JPF)

	<p>(3) 給水用井戸開設・水衛生啓発 難民帰還省及び WASH クラスターの方針に基づき、国内避難民・帰還民が集住する地域の水不足解消と衛生状態の改善を目的に、給水施設の設置と衛生啓発を行い、水衛生環境を改善した。</p>	<p>対象地域の 400 世帯 (約 2,800 人) (200 世帯×2 地域)</p>
成果	<p>(1) 女性のエンパワーメント 対象地域の女性 2,133 人 (女性シューラ 10 人+女性センター活動 75 人+識字教室 50 人+イベント参加 506 人 (子どもの日 266 人+識字デー240 人) +縫製教室 25 人+プロモーター研修 20 人×3 センター) が保護課題への認識を高め、基礎知識を得られる場が提供され、保護課題に対応するシューラの能力が強化された。</p> <p>(2) コミュニティベースの教室による就学サポート 対象地域において、国内避難民・帰還民の子ども 960 人 (男児 494 人、女児 466 人) がアクセスできる教育の機会が提供された。</p> <p>(3) 給水用井戸開設・水衛生啓発 計画通りに達成した。国内避難民・帰還民 400 世帯が安全な水へのアクセスを有している。また、国内避難民・帰還民 400 世帯の衛生に関する知識が向上した。</p>	
課題と対応策	<p>活動 (2) に関して、以下のような課題が見られたため、現地のコミュニティおよびスタッフと下記のような対応策を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・ COVID-19 が拡大したため、感染予防を徹底し事業を実施した。・当初は、敷設したパイプを通じて各給水ポイント (蛇口) から井戸水を裨益者へと供給予定であった。しかしながら、COVID-19 感染が拡大したことから感染症予防の必要が生じたため、給水ポイントに多くの人々が集まらないように、各家庭に直接パイプを敷設し、蛇口を設置することにした。活動に関してコミュニティが現地プロモーターと積極的に話し合いができる関係を構築できたことから、このようなニーズを事業に反映させることでよりよい支援を実現することができた。	
教訓・提言	<p>(1) 女性のエンパワーメント COVID-19 の影響によって、感染予防に配慮した上での事業調整、実施となった。このような状況下において、一部、研修の内容・期間などを縮小・変更する必要はあったものの、本コンポーネントへの裨益者の積極的な参加意欲が見られ、ニーズの高さがうかがえた。女性センターの活動は参加者の知識の向上に大きく貢献し、いかに対象地域の女性たちにとって、保護課題への認識を高め、基礎知識を得られる場を提供することが重要な支援であるかを再認識した。</p>	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2021年3月22日

報告書名：平成31年度 完了報告書（JPF）

（2）コミュニティベースの教室による就学サポート

COVID-19 発生の影響によって、感染予防に配慮した上での事業調整、実施となったため、より難度の高い調整業務となった。授業の実施についての指標は設定されていないが、当初予定していた9カ月間の授業の内、COVID-19の発生にともない、4.5カ月程度の授業期間となった。しかしながら、対象地域におけるCBCへの支援ニーズは非常に高く、裨益者から当事業の事業期間を延長、CBCを継続して欲しいという声が多くあった。このような状況から、コミュニティレベルでCBCの活動を継続する意欲も高く、事業完了後もCBCの活動を継続していることを弊社スタッフが確認した。行政からの国内避難民および帰還民への教育サービスの提供は非常に限定的であり、NGOへ支援を求めている人々が多いということを再認識した。

（3）給水用井戸開設・水衛生啓発

対象地域のような、都市部外に住んでいる人々は、公衆衛生に関する知識をほとんど有しておらず、衛生啓発・衛生教育への支援ニーズが非常に高いことが分かった。